

平成 29 年 1 月 4 日

平成 29 年年頭挨拶（要旨）

三菱化学物流株式会社
取締役社長 石川 甚秀

昨年、当社は創立 60 周年という区切りを迎えたが、今年も大きな節目を迎えることになる。本年 4 月 1 日、当社は「三菱ケミカル物流株式会社」として新たなスタートを切る。これを機に気持ちを新たにして業務に取り組んでいきたい。

また、今年度（2016 年度）から中期経営計画「MCLC APTSYS 20」がスタートした。当社の「2020 年度のあるべき姿」として、「KAITEKI 物流を創造し、化学品物流日本一を目指す」ことを掲げているが、これを達成するためには、今まで以上に全員参加で知恵を出し合っていく必要がある。その意味で、昨年 11 月に三菱化学グループ小集団活動発表会において、当社の黒崎支社「KAITEKI 配車チーム」が特別賞を受賞したことは好例で大変嬉しく思っており、2 月に予定されている三菱ケミカルホールディングスグループ小集団活動発表会での活躍も期待している。ぜひ各職場にも後に続いていただきたい。

それでは、「MCLC APTSYS 20」の活動重点項目に沿って私が考えていることをお話ししたい。

◆ 本年 4 月 1 日、三菱ケミカルホールディングスグループの化学系事業会社 3 社の統合により、「三菱ケミカル(株)」が発足する。当社の武器である包装資材も含めたサプライチェーン総物流機能等を駆使し、積極的に物流改善の提案をしていきたい。一方、海外では、昨年三菱化学(株)がインドと中国でテレフタル酸事業を売却し、当社並びに当社現地法人もこの影響を受けることは否めないが、むしろ“ピンチをチャンス”と捉えて新しいビジネスを探索する契機にしたい。また、ベトナムでは、昨年 10 月に駐在員事務所を設立した。早期の現地法人化を進めていきたい。

◆ 物流環境変化への対応については、当社のコアとする事業は化学品物流であり、近年、トラック乗務員や船員の不足が言われ、危険物や重量物、長尺物等の物流が敬遠される傾向にある中、当社はこうした変化に対応した物流力を確保して、化学品をしっかりと輸送することができる物流会社であり続けたい。そのために、陸運事業では 3 年前から取り組み中の JR コンテナ専用枠の拡充と

ともに、倉庫の拡充を図っていく。㈱LSI メディエンスの診断薬物流センターにおける元請開始や、神奈川ロジスティクスセンターの設置に続き、本年も各拠点で倉庫の新增設を検討しており、これをネットワークシステムの導入や共同物流の実現に繋げていく。さらには、川崎、尼崎の両油槽所でのタンクターミナル事業を更に発展させた新たな事業化を進めていきたい。また、三菱化学㈱水島事業所内の石炭ボイラー発電に関する海運、陸運の輸送業務が今年 7 月からスタートするので、子会社の菱化ロジテック㈱とともに、年初から準備体制を整えていく。さらに、海運事業では内航船団の増強を引き続き進めていく。この 1 月には石炭ボイラー発電に関して石炭輸送の新造船が進水するし、高圧ガス船 2 隻のリプレイスも予定している。ちなみにこれら 3 隻のスクリューには三菱レイヨン㈱製のカーボンファイバーを使用しており、省エネ効果も期待している。包装資材と物流のシナジーも、一昨年来着実に増加してきているが、今年は更に人の交流も図っていく。

◆ 物流基盤の整備については、当社の物流の基礎は人材にあり、昨年 7 月に人づくり推進室等を設置し全社的な人材育成を進める体制を整えた。本年は化学品教育や特定業務従事者教育の一層の浸透や、スタッフ育成体系を整備、充実させて個のレベルアップに繋げていく。加えて、昨年は現場交流会等を実施したダイバーシティも、本年は範囲を広げて活動の全社的な展開を図る。

一方、新統合物流システム「AJIOS」の稼働が一部始まった。これまでのシステムに比べはるかに使い易くなるはずであり、ぜひ積極的に活用し、様々な効率化へと繋げていただきたい。

◆ 私は、“化学品物流”に携わる当社にとって、安全 QA(Quality Assurance)、コンプライアンスは企業存続の大前提であると常々申し上げてきた。トラブルやコンプライアンス問題の多くは、荷主様、協力会社様や社内他部門との接点における問題であり、情報と価値観を共有化すると同時に役割分担を明確にして、この接点業務のトラブル撲滅へ取り組んでいきたい。そのために、“バカの壁”を破って何事も積極的に確認し、そして、自分の仕事が「何のために」、また何故このような化学品を輸送しているのか等を確認する“Know-Why”を実践していこう。それにより、皆さんの仕事への使命感、責任感がより強まり緊張感に繋がると思う。互いに注意し合って、協力し合って、助け合って、“三菱化学物流”という組織で安全 QA を作り上げていきたい。

想いを共有し、各人が「内なる炎に火をつけて、打ち込め魂仕事の上に」で邁進していただきたい。そのためにも、皆さん一人ひとりが健康で生き活きと過ごせるように、「健康経営」という観点から、組織で皆さんの健康を守り向上

させていきたい。本年も明るく楽しく、そして健康に1日1日を過ごしていこう。

本年は当社にとって、三菱ケミカル㈱の中核で物流機能を担う会社として、改めて飛躍を期す1年にしていく年である。

私は、本社に出勤している日には、今年も、社内を回って皆さんと挨拶を交わし、またそれとともに話しかけていきたいと思っているので、互いに目線を合わせて挨拶して頂ければと思う。

最後に、本年1年間、当社グループを支える従業員の皆様並びにご家族の皆様方が、ご健勝に活躍されるよう祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。ご安全に。

【1月4日（水）13:00-13:20 本社会議室にて】